



【第47期初級陸曹特技課程「准看護師」入校式】

令和4年4月1日

4月1日（金）、自衛隊札幌病院准看護学院（学院長 野澤2佐）は、北部方面総監部から医務官小林1佐、防衛部訓練課長椋木1佐、人事部人事課長瀬尾1佐、北部方面最先任上級曹長金子准尉のご臨席を賜り、多くの志願者の中から選抜され、北は北海道（旭川）から南は沖縄（豊城）の全国から集まった第47期初級陸曹特技課程「准看護師」27名（男性9名、女性18名）の入校式を挙行し、学生代表の松井士長は同期を代表して決意を込めた力強い声で申告を実施した。

入校式にあたり病院長（鈴木陸将）は、「本課程で養成される准看護師たる初級陸曹は、第一線から治療・後送の各段階において、傷病者救護・看護を担うという重要な役割が期待されている。」と話し、学生に『自己錬磨』『思いやり』の2つを要望し、「修業における自己の目標を設定し、地道に日々研鑽するとともに、それぞれの場面において自分のベストを尽くし、目的意識と自発的な意欲を持ち努力を継続することは諸官に大きな成長をもたらす。与えられた365日24時間を自己錬磨のために有意義に使ってもらいたい。また第一線における過酷な状況や疲労困憊の中で、傷病者を救うことは非常に厳しい任務です。我々の仲間、負傷したら必ず助けてくれると衛生を信頼して任務に邁進しています。そのためには、患者を思いやり、仲間を思いやり、「利他」の心を持って行動できる、使命感を持った衛生科隊員であることが求められる。人の痛み、苦しみや悩みを感性深く受け止め、人を思いやる気持ちが滲み出るような准看護師を目指してほしい。」と訓示した。

准看護学院長は、『ビジョン&ハードワーク』を要望し、「長期的目標を達成するのは容易ではなく、そのために多くの短期的目標を達成する必要があることから、平素より明確なビジョンを持ち、日々一生懸命に努力することが大切である。諸官ら一人一人が将来どのような准看護師たる衛生救護陸曹になりたいか明確なビジョンを持ち、それを達成するために今何をすべきかを考えて日々研鑽に努めてもらいたい」と式辞を述べた。

北部方面総監部医務官（小林1佐）は、「君たちは、これから二年間、ここで誇り高き准看護師、そして誇り高き救護陸曹になるべく教育を受ける。『負傷した人を助ける』その誇り高き使命感を強く持って、学んでください。君たちには大変な現場での活躍が期待されています。君たちは大事な宝であると認識をしていますし、また、大きな期待をしています。ぜひ優しさと強さを兼ね備えた准看護師を目指して頑張ってもらいたいと思います。」と祝辞を賜った。いただいた訓示等における激励の言葉を心に刻み、決意を新たに学生27名は准看護師となるべく教育に臨む。



決意を胸に入校式に臨む学生



病院長 訓示



病院長の訓示を聞く学生



准看護学院長 式辞



北部方面総監部医務官 祝辞



集合写真